

千葉演習林 ボランティア会

Abies 通信 (No.37)

2012.3.5

もくじ

1. 11月度 Abiesボランティア活動
千葉演習林・秋の一般公開サポート
2. 11月度 Abiesボランティア活動
千葉演習林ガイド：けやき倶楽部歩こう会
3. 1月度 Abiesボランティア活動
シカ生息数調査サポート

11 月度 Abies ボランティア活動

千葉演習林・秋の一般公開サポート

石川 輝雄

千葉演習林・秋の一般公開は平成 23 年 11 月 25 日(金)、26 日(土)と 12 月 3 日(土)、4 日(日)の 4 日間の公開が予定されていましたが、12 月 3 日(土)は荒天で中止となり、残り 3 日間の公開となりました。

天候は 11 月 25 日(金)と 26 日(土)は曇りまたは晴、12 月 3 日(土)は朝から大雨、4 日(日)は雲ひとつない快

晴で、最終日の 4 日(日)が紅葉の状態もふくめて最良の日となりました。

来ていただいた方の人数は総数で 3,785 名ですが、最後の 4 日(日)が 1,800 名ほどですので、残りの 11 月 25 日と 26 日は 1 日あたり 1,000 名となりました。





一般公開での紅葉



メタセコイア林

従来と変わったことは、初日が金曜日（平日）になったことと、公開のコースが猪ノ川林道の黒滝から小屋ノ沢土場の往復となったことです。今までは黒滝から柚ノ木歩道入口までなので、郷台作業所側に少し延長されました。また柚ノ木歩道（地蔵峠への急な登り）は取りやめになりました。

私たち Abies はのべ 17 人（1 日あたり 5～9 名）が参加して、受付の手伝い、演習林のガイドブックや絵葉書の販売の手伝い、コースの巡視などをサポートしました。

また Abies が販売した演習林の花などの写真を集めた下敷き（単価 500 円）も好評で、用意した 35 セット（けやき倶楽部に販売した 14 部を含む）が全部売り切れました。従来は春版または秋版それぞれ単体で 300 円、セットで 500 円の価格を付けていましたが、過去に単体ではほとんど売れなかったので、今回はすべてセット売りとしました。またセットの 2 枚をまとめるためにホルダーをつけたこともよろこばれたと思います。

この公開コースである猪ノ川林道の最大の見どころは紅葉ですが、その他巡視しているときに聞かれることの多い場所や内容を紹介します。

- * 黒滝 * 猪ノ川の洗濯板状の川底 * 川廻し * 硫黄泉 * 草川原用水路 * 袋山沢水文試験地
- * 柚ノ木スギ二段林試験地 * メタセコイア純林 * ネコノチチ（木） * ヘラノキ（木）
- * メタセコイア（曙杉）、ラクウショウ（落羽松）、コウヨウザン（広葉杉）の見分け方
- * モミ、ツガ、カヤ、イヌガヤの見分け方 * スギ、ヒノキ、サワラの見分け方
- * シカ、イノシシ、ヤマビル * 植物の名前（秋は花がほとんどないが、コケやシダまたはきのこ）

11 月度 (2) Abies ボランティア活動

演習林ガイド：けやき倶楽部歩こう会

石川 輝雄

平成 23 年 11 月 28 日 (月) に千葉大学生涯学習友の会「けやき倶楽部歩こう会」の皆さんへの演習林ガイドをおこないました。

参加者数は総数 75 名とかなりの人数です。A 1 (健脚クラス)、A 2 (A 1 に準ずるクラス)、B (散策クラス) と 3 チームに分けて歩きたいとのことでしたので、各チームの人数は 25 名となります。

今回のチームのガイド担当役は石川 (輝) → A 1、岩崎さん → A 2、中原・長谷川さん → B の 4 名です。



A 1、A 2 チームについては秋の一般公開コース (黒滝—小屋ノ沢) を希望されていましたが、黒滝—郷台作業所間にした方が見どころも多く、昼食やトイレの場所も確保できるので、こちらのコースを事前に勧めてガイドをしました。

B チームはコースを短縮して黒滝—新田 (しんた) 間とし、希望によってはさらに先までとしました。当日は雲が多めながら時々日差しがあるというまあまあの天候となりました。

9 時 30 分に大型バスで来られた皆さんを長崎十字路で出迎えて、とりあえず無料駐車場まで歩き、ここで挨拶と班分けをして、A 1、A 2、B チームの順番で本日のコースに向かって歩きはじめました。

A チームについてはコースを郷台作業所までに変更したことが良かったようで、牛蒡沢のスギ美林、相ノ沢スギ品種試験地、西ノ沢 (千葉演習林のさまざまな森を見ることのできる展望地) などが印象に残ったようです。満足いただけたガイドができたと思います。

B チームは、先方の突然の都合によりガイドの時間を早くきりあげる形となり、いろいろな説明資料を準備してもらった中原さんには申し訳ない形になりました。

今回のガイドについては、チームの構成も複雑で人数も多いので、事前に下見を行うとともに、ガイド手順や役割も決めて、相手と確認しておいたにもかかわらず、残念な結果になりました。今後のガイドへの反省点となりました。

なお、下見は「けやき倶楽部歩こう会」代表の井田さん他世話人の方と Abies の岩崎さんと石川 (輝) が参加して 10 月 13 日 (木) におこないました。

その際、加勢林道入口と黒滝の間で落石があり、道が完全にふさがれていました。私たちは過去に何回か経験していることでもあり、ガイドの日まで時間もあるのであまり心配もしませんでした。しかし、「けやき倶楽部歩こう会」の皆さんはびっくりされたようで、その後、大丈夫かの問い合わせがありました。



土砂崩れの様子

11 月度 Abies ボランティア活動

シカ生息数調査サポート

石川 輝雄

千葉演習林におけるニホンジカなどの生息数調査が平成 24 年 1 月 30 日（月）、31 日（火）に行われ、中原、藤田（貴）、藤田（和）、後藤さんと石川（輝）の 5 名が参加しました。藤田（和）さんはこの調査には初参加で福島県西郷村（にしごうむら）から遠路参加いただきました。後藤さんは初参加でしかも Abies 入会初参加です。

今年も例年通り全員が前日に清澄宿舎に集まり、夜に色々調査の内容を教してもらい、宿泊して明日の調査にそなえます。

今年の調査は 1 月 30 日（月）の午前中に札郷管内、午後は清澄管内、翌 1 月 31 日（火）の午前は郷台管内でした。この調査の期間中は寒くて風が強いこともありましたが快晴となり、特に問題もなく順調に終了しました。

調査担当区画の組み合わせは中原・後藤さん組と石川（輝）・藤田（和）さんの 2 組でした。通常は 1 区画 1 名の配置ですが、後藤、藤田（和）さんが初参加者なので、演習林に配慮をお願いして 2 名としていただいております。

調査区画は例年通り、札郷管内 20 区画、清澄管内 23 区画、郷台管内 20 区画で各々担当者が配置され、スタート時刻をあわせ、その後 1 時間 30 分の間にシカなどに何頭出会えるか観察する方法です。全体では演習林職員と我々ボランティア団体で 30 名ほどが参加した大規模な調査活動です。

中原・後藤さん組はシカを見ることが出来たようですが、石川（輝）・藤田（和）組は見ることができませんでした。



調査の記録地図

自分の担当区画が示されている地図上に歩いたコースと時間を記入して、シカを見つけたらその場所に・時間・シカの頭数などを記入する方法です。石川・藤田（和）組が担当した札郷 15 区画の例を載せます。シカを見ることができなかったので歩いた道筋と時間のみ記入されています。かなり険しい（等高線がつまっている）場所もあるということがわかります。

今年のシカの観察頭数は札郷管内 15 頭、清澄管内 3 頭、郷台管内 2 頭という結果でした。1994 年の 14.0 頭/km²をピークとして年により増減があるものの減少傾向で、今年の 2012 年は 3.2 頭/km²となりました。

参加された皆さんお疲れ様でした。今回参加いただいた藤田和孝さんの感想を掲載します。



調査前のミーティング

シカ調査 初体験記

福島県 西郷村 藤田 和孝

初めて千葉演習林のシカ調査に行って来ました。活動報告は事務局の石川（輝）さんからありますので、初体験のテンヤワンヤを記したいと思います。

少し自分のことになりますが、東大千葉演習林のボランティアに関わったのは、2003年12月に3泊4日で行われた最初のボランティア活動「森を測ろう」でした。清澄宿舎に泊まりこんで、職員に混じって所定の手順で基準の人工林の杉の大きさを測り、前回（10年前と伺った）の調査と比較して成長量を求めるデータを取る作業。シカ調査と似ているのは、普段入ったことのない所や急斜面などお構いなく歩き回る点。

それから11年も経ってやっと初めてシカ調査に参加。如何に活動参加に不熱心かバレてしまいましたが、熱心なお誘いが石川（輝）さんから何年も続いたことも参加のきっかけでした。

時期が1月とあって寒いと言う先入観のため、先ず寒さ対策。厚手の下着から上着、靴下、手袋、帽子、さらに防寒着、靴などで大きな山用キスリング一杯になってしまいました。秋の一般公開で、受付をする加勢林道での寒さを経験していたので、今住んでいる場所より暖かい筈なのにそんなことを考える余裕も無く、ただもう寒くないようにしなければの一心でした。

そして、前泊の日、17時に間に合うように自宅を出発。経路は高速バス（安い）で新越谷へ、そこから電車を乗り継いで、錦糸町～千葉～安房天津、ここからバスで清澄宿舎へ。途中、もう見慣れなくなった茶色のキスリングが歩いているような不恰好な姿のオジンが各駅で乗り換えるたびに、迷惑と言わんばかりの乗客のトゲのある視線を一身に浴びて、こんなに注目されるのは生まれて初めて！と歎きつつ内心は冷汗掻きながら遠慮がちに車内の隅っこに小さくなっていました。下調べの効果で途中の乗り換えはスムーズ。でも、千葉駅構内でのランチを楽しみにしていたが、何とレストラン街は工事中！仕方なしに唯一開いていた立ちそばやでランチ。世間をうらむな、自分を恨め、と演歌の一説を浮かべながら、あの「寅さん」だったら、旅の空しさ、何があっても驚いちゃーいけねー、と笑い飛ばすだろうな、と蕎麦を啜り込む。

午後3時半ごろ清澄宿舎着。懐かしい顔の鈴木俊江さんが居たので、なんだか故郷に帰ったみたいな暖かさを感じる。荷物を部屋に放り込み、為す術なく、皆さんの揃うのをボーっと待つ。

車中での景色でもそうだったが、ここ清澄の風景は西郷村の落葉した木々の山の風景とは全く異なる。常緑広葉樹がこんなにも多かったことに改めて気付く。他国に来たんだなー、と言う実感が込み上げる。

今回のシカ調査は石川（輝）さんとペアになり行動。よって、調査のやり方は一切不安



調査を担当した演習林の山（郷台）

解消。受け持ち区画は2日間とも宿舎や作業所の近くだったり、林道に面していたりで歩行的困難さは無かった。むしろ、変化が少なくて少し期待外れの感も(初めての癖に生意気言ってすみません)。

シカや他の動物には遭えませんでした。鳥の鳴き声は何種か聞こえましたが、鳥もオンチの私には小気味良い自然の音の一部に。

2日目は更に好天で郷台林道から西方には富士が小さく見え、一般公開では通れなくなった地蔵峠山塊も確かめられ、シカ調査の始まる前の空き時間にプチ観察会。西郷村の冷温帯林では見られないもの数種。マメヅタ セッコクラン ムカデラン マルバチシャノキ バリバリノキ シロダモ サカキカズラ など。



静かにシカの出現を待つ

今回の初参加で興味深かったのは、1日目の夜、及び2日目の朝、調査結果の解析を山中先生がするのを垣間見れたことである。隣あった調査区画でシカの目撃が数頭ずつあったが、目撃した時間、場所、シカの向かった方向の記録とシカの生態から、これは同一個体、こちらは別の個体、と解析する様は、まさに名探偵が難事件を次々と解き明かすような爽快感を感じた。

また、2004年ごろより、清澄地区でシカ目撃が減っていることが調査結果から読み取れ、その因は害獣駆除を始めた頃と一致するとのことも面白く拝聴した。

こうして前泊から二泊三日の日程無事終了。かつては遭難したり迷ったりしたことがあったと驚かされたシカ調査でしたが、そのような経験が今回の無事終了の要因にもなっているようです。

帰りも首都圏の満員電車を、冷やかな視線を浴びながら大きなキスリングを担いだりしながらやっと郊外に抜け出したのは言うまでもありません。

又、持参した防寒着などの半分は使用しませんでした。冷静に判断すればキスリングなど必要なかったと大いに反省です。

こんな初体験でしたが、又機会があったらシカ調査に行ってみたい、と思っています。そのときはきっと荷物は小さくなることでしょう。

終わりまでお読みいただいて有り難うございました。

(2012年2月9日脱稿)

=====

千葉演習林ボランティア会 Abies 通信 No. 37

*事務局 〒264-0032 千葉県千葉市若葉区みつわ台 3-1-2-102

石川 輝雄

*東京大学千葉演習林 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770

TEL:04-7094-0621 FAX:04-7094-2321